

鳥獣の被害対策

アライグマの生息数低減を目指す！！

～益田市でのアライグマの効率的な捕獲体制の構築を目指して～

研究の背景・目的

鳥根県でのアライグマは平成21年度以降、益田市を中心に捕獲数が増加しています。しかし、捕獲対策では錯誤捕獲が障害となっており、錯誤捕獲を低減できる新たな捕獲わなの開発や捕獲圧を強化するための新たな捕獲技術の確立が必要となっています。アライグマは年間の増加率が50%にも達するほど繁殖力が高いことから、生息数が少ないうちの捕獲が経済的、労力的に効率が高く、その対策は極めて緊急性が高いといえます。



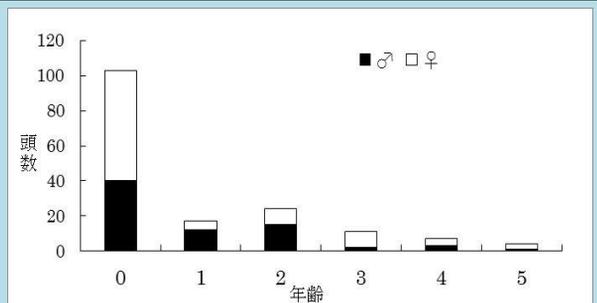
発信機を装着したメス

研究方法

- ①捕獲されたアライグマの捕獲場所、年齢、性別、出産、妊娠率、胃内容物を調査して、県内のアライグマの生息実態を把握します。
- ②効率的な捕獲ができる場所や環境を明らかにするために、アライグマにGPS発信機を装着して、活動時間、行動範囲、利用している環境について調査します。
- ③アライグマ以外の動物が誤って捕獲される「錯誤捕獲」が多いことから、アライグマを飼育実験して、錯誤捕獲を避けることが可能な新たな捕獲わなを開発します。また、飼育個体を使って、嗜好性の高い餌を検索します。

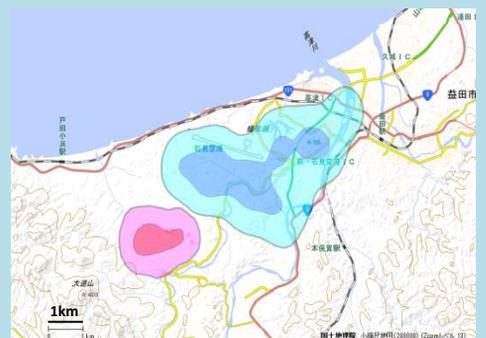
研究状況

①H27年度は168頭(雌雄比6:4)が捕獲されて、牧場やハウスドウ園での捕獲を多く認めました。年齢構成は、0歳が62%と多くを占めました(図)。また、出産・妊娠率は73%と高く、1頭当たりの出産数は4~6(平均4.6)頭でした。胃内容物は、果実、甲殻類、昆虫類の順で多く出現したことから、果樹園や水辺での採食が多いことがわかりました。



H27年度の捕獲個体の年齢構成

②H27年度はオス、メス各1頭を追跡しました。活動時間は、夜間に活発に活動して、昼間は休息していました(図)。オスは、メスよりも行動範囲が広いことがわかりました(図)。利用環境は、昼間は森林、水辺の利用が多くて、夜間は森林、市街地、田畑・果樹園の利用が多いことがわかりました。今後も継続して調査を行う予定です。



追跡個体の行動圏(赤:メス、青:オス)

③現在、錯誤捕獲を回避できる効果的なワナを専門業者と共同で開発中です。また、甘味の強い餌(角砂糖など)に誘引される傾向を認めて、ネコの嫌う柑橘系の餌(ミカン、レモンなど)の嗜好性はきわめて低いことがわかりました。

研究成果の活用・今後の研究計画

益田市でのアライグマの生息数を低減することによって、被害発生リスクを減らすと共に、周辺自治体への分布拡大を抑制することができます。また、アライグマの生息数の低減を図るための技術マニュアルを作成して、他市町でのアライグマ対策の初動対応に役立てます。

担当科 : 鳥獣対策科
研究担当者 : 小宮 将大 (こみや まさひろ)
問い合わせ先 : 0854-76-3819
E-mail : chusankan@pref.shimane.lg.jp

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

試験研究課題名 : 益田市でのアライグマの生息数低減への成功モデルの構築 (研究期間: H26~29年度)

